

同志社大学 良心学研究センター主催 公開シンポジウム

シリア内戦、難民の奔流、 そしてパリ同時多発テロ

混迷を深めるシリア内戦。それに連動する形で生じてきたヨーロッパに向かう未曾有の数の難民たち。移民・難民の受け入れをめぐり、「ヨーロッパの良心」が試されていると言われてはいますが、いまだ EU 諸国の間でも十分な合意形成がなされてはいません。移民の多くはムスリムですが、ムスリムにとって、ヨーロッパは安住の地となっているのでしょうか。このような問いに各国が向き合っているさなか、11月13日、パリで同時多発テロ事件が起きました。これら課題はそれぞれが個別の事情を持ちながらも、すべて関連しており、日本社会もそれと無関係ではられません。良心の痛む事件を目の当たりにして、これらの課題に向き合っていく視座を得るために、緊急のシンポジウムを開催いたします。

● 日時：2015年 **12** 月 **9** 日（水）16:40 - 18:30

● 場所：同志社大学 今出川キャンパス 神学館礼拝堂

● 講演：内藤 正典

（同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科 教授）

司会：小原 克博（同志社大学 神学部 教授、良心学研究センター長）

コメンテーター：

菊池 恵介（同志社大学大学院 グローバル・スタディーズ研究科 准教授）

Idiris Danismaz（同志社大学 高等研究教育機構 特定任用研究員）

良心を世界に一良心を覚醒させる知の連携と知の実践



同志社大学 良心学研究センター

<http://ryoshin.doshisha.ac.jp>

講師 略歴

内藤正典（ないとう まさのり）

1956 年 生まれ

1979 年 東京大学教養学部教養学科 科学史・科学哲学分科卒業

1981 年 同大学院 理学系研究科 地理学専門課程 修士課程修了

1982 年 東京大学教養学部助手

1986 年 一橋大学社会学部専任講師

1997 年 一橋大学大学院社会学研究科 教授

2010 年 同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授就任。現在に至る。

この間、シリアのダマスカス大学留学（1981－83年）、トルコのアンカラ大学政治学部客員研究員（1990－92年）、フランス社会科学高等研究院（EHESS）客員教授（2015年）、英国アバディーン大学客員教授（2015年）、ユネスコ人文・社会科学セクターで学術諮問委員、日本学術会議連携会員などを歴任。

専門：中東の国際関係、現代イスラム地域研究、ヨーロッパにおけるイスラム教徒移民の諸問題。

著書：

「トルコ－中東を知る鍵となる国」（近刊・集英社）、「イスラム戦争－中東崩壊と欧米の敗北」（集英社）、「イスラームから世界を見る」（筑摩書房）、「神の法 vs.人の法」（共編著・日本評論社）、「イスラーム世界の挫折と再生」（編著・明石書店）、「イスラームとヨーロッパ」（岩波書店）、「アッラーのヨーロッパ」（東大出版会）など。

1. 自称「イスラム国」は何を狙ったのか？

- ★フランス共和国、パリ市民
- ★フランスをはじめ「グレイ・ゾーン」に暮らすムスリム
- ★長期にわたる訓練を必要としないインスタントなテロ
- ★ムスリムの分断を狙う

2. 自称「イスラム国」はなぜ生まれ、何をしようとしているのか？

- ★過激主義の潮流はひとまず置いて
- ★世界中から居場所を奪われてきたムスリム
- ★中東・イスラム世界諸国の腐敗と墮落
- ★弱者救済の相互扶助組織でさえテロ組織にされる現状
- ★彼らにとって、希望の地だったヨーロッパ（アメリカも）の変容と差別・排除
- ★行き場を失ったムスリムに接近する「イスラム国」
- ★空爆を重ねるほど戦闘員を誘引することになる

3. シリア内戦と「イスラム国」問題は別

- ★対テロ戦争にかこつけて内戦を悪化させる諸外国
ロシア+イラン ⇒ アサド政権支持
トルコ+カタール+（米国、英国） ⇒ アサド政権退陣を要求
- ★米国は、シリア内戦には口先介入しかできない
- ★ロシアは基地権益を手放さない
- ★イランは、イラン ⇒ イラク ⇒ シリア ⇒ レバノン シーア派回廊構築へ
- ★無数の反政府勢力が入り乱れる状況では、反政府側への支援も困難
- ★内戦の激化により、「イスラム国」が侵入したが、「イスラム国」はアサド政権にもシリアにも、元々、関心は低かった
- ★トルコは、なぜロシア軍機を撃墜したか？

4. おそろべき状況に追い込まれたシリア難民

- ★国際社会はシリア内戦を5年に渡って放置
- ★EU諸国は、結局、押し付け合い、シェンゲン協定による域内自由移動の原則さえ停止
- ★難民を資金援助+ビザなし渡航と引き換えにトルコに押し戻す？
- ★EUは崩壊しないまでも、理想とする姿から程遠い現実に直面
- ★確実に台頭する反イスラム運動と排外主義
- ★ヨーロッパ在住のムスリムを疎外し続ける悪循環に陥っている

5. 解決への糸口は？

★現状では、ない

★非現実的だが、信仰に従って正しく生きようとする穆斯林に安心と居場所を与えること



◎ご案内：公開シンポジウム

「「卵の側」に立つ科学——最新の脳科学と臨床心理学の「良心」」

日時：2016年1月30日（土）13:00 - 15:30

場所：同志社大学 今出川キャンパス 明德館1番教室（M1）

講師：櫻井 芳雄（同志社大学 脳科学研究科 教授）

武藤 崇（同志社大学 心理学部 教授）

司会：小原 克博（同志社大学 神学部 教授、良心学研究センター長）

コメンテーター：下楠 昌哉（文学部 教授）、林田 明（理工学部 教授）